

班示陸軍教導團生徒召募格例  
 (廿九日) 司法省廢從來諸課置九府○大藏省置國庫出納條例掛  
 (三十日) 司法卿出示司法省各局分掌規程○天皇御吹上禁埒觀海軍將校并華族暨射的  
 (十二月一日) 地

出セシ議員ニ不都合ノ事アリトテ全地ノ有志者松本某櫻井某ヨリ改選ノ義ヲ府廳ニ伺ヒ出テシカ府知事ヨリ左ノ通り指令サレタルニ付尙内務省ニ伺ヒ出テシト  
 書面伺之概左之通可相心得候事  
 ○第一條 撰舉人民ヨリ議會ニ對シ疑問ヲ質スノ成規無之ニ付向分ノ指令ニ及ヒ難シ○第二條 府縣會議規則明文ノ外撰舉人意見ヲ以テ改撰スルヲ得ス○第三條 會議ニ於テハ素ヨリ府縣會議規則ニ背戾シタルヲ議スルヲ得ズ  
 十九日 土曜日 晴 舊廿八日 正午寒暖計五十六度  
 紛議和解 兼テテ世論ヲ變動セシ生絲紛議ノハ去ル八日ヲ以テ引取商人ヨリ外國臨時委員トノ間ニ取極メタル約束ノ箇條ヲ承諾シ茲ニ初メテ聖和ノ局ヲ結ビ直ニ取引ヲ始ムルコトナリ商權回復ノ功ヲ奏シタルハ實ニ慶賀スヘキ也  
 檢事年俸 各區裁判ニ新ニ置カル、檢事ハ年俸六百五十圓ナリトノ事  
 道路開鑿 高崎ヨリ長岡マテ五十里餘ノ道路開鑿ハ土木局ノ吏員出張ニテ此節着手サレタル由又越後ノ東北銀行ニテハ同地方ノ運輸ヲ便ニセンガ爲メト越ノ界ナル清水越ニ隧道ヲ作り馬車ヲ通セントテ不日着手スルト云フ  
 二十日 日曜日 晴 舊二十九日 正寒暖計五十八度

方官諮問會開設  
 各府縣知事令上京  
 (三十一日) 山形縣令三島通庸福嶋縣令山吉盛典有功賜物各有所差  
 (三十一日) 天皇行幸三田育種場觀大競馬○聞兵庫縣募集管下農事通信委員開勸農會  
 (四日) 千葉縣開

天皇行幸 聖上ニハ昨日海軍兵學校ニ臨ミ生徒卒業證書與授式ヲ天覽アラセラレタリ  
 政黨新聞 中島信行氏ハ昨日大坂 赴ケリ是レハ畿内ノ有志者ガ政黨新聞ヲ起スニ付其社長ヲランコト請ヒシニ由ル、又自由黨ニテ地方派出ノ區域ヲ定メ板垣馬場中島河野末廣等ノ諸氏ガ出掛ケルト  
 地方演說 知縣三河國知立驛ニテ内藤某村上某等ノ諸氏ガ發起ニテ去ル七日ニ演說會ヲ開キシ處臨場、警察官ヨリ國安ヲ妨害セシトテ中止ヲ命ゼラレハ來ル人モ大ニ不平ノ摸樣ニテ演日懇親會ヲ開キ盛ニ演說ヲ爲セリ然ルニ警察官ハ其席ニ臨ム可シト云フニ依リ懇親會ニ臨監ヲ受グル理由ナシトテ之ヲ拒ミタレハ是非出張スルトノ事故已ムテ得テ臨官ノ席ヲ設ケ尙演說ヲナシタルニ内藤始メ五人ノ辨士ニ其席ヨリ拘引シラレ未タ放免ヲサルトノ由  
 二十一日 日曜日 雨 舊三十日 正午寒暖計四十六度  
 元老院 公院ニハ皇宮每年一月十五日ノ開院式ヘノ臨幸アラハ玉フコナリ、カ來十五年一月ヨリ會議ノ砌折々臨御遊ハサル、ト云フ  
 坊棹軋 防長二州ノ眞宗僧徒ガ所々ニテ盛ニ佛教講談會ヲ開ク由ナルガ元來該縣下ノ僧徒ハ學問ヲ屬シ天下ノ形勢

水産會

〔五日〕 内務省地  
理局測量課移觀  
象宰、紅葉山

ニ注目スルヨリ聘衆モ頗ル多クレハ警察官ハ民權ヲサキ  
テモ説キテハナラヌト思ヒニヤ臨場セント云ヒ出シタル  
ニシテ僧徒等ハ我佛法ノ説教ハ集會條例ノ關スル所ニアラズ  
ト云ヒ宗旨ト警察ト將ニ一大葛藤ヲ生セントスル勢ナリト  
ノ由自由ノ時運方外ニ及ブト云フヘキ乎  
判事檢事 一昨日司法省ニテ各裁判所詰ヲ命セラレシ判事  
補ハ四十名檢事ハ八名ナリ

廿一日 火曜日 曇 舊十月一日 寒暖計正午五十七度

清國副使 張斯桂君ハ昨日參内サレタリ  
和解宴會 内外生糸商紛議ガ和解ノ功ヲ奏セシニ付引取商總代カ催主トナリ横濱町ノ  
會所ニ盛宴ヲ張リ地方ノ荷主聯合ノ各商ト外國聯合ノ生糸商及ヒ新聞記者等ヲ招待シ  
テ餘興ニ烟火踏舞ヲ催シ慶賀ノ意ヲ表シタリ

議員會同 京都府會議長松野新九郎大坂全西川甫ノ兩氏カ會主ニテ關西各府縣會議員  
懇談會ヲ催サレ去ル十五日京都鴨東ノ迎賓館ニテ開會ニナリ京坂兩府兵庫三重滋賀岐  
阜長野石川和歌山愛媛福岡鹿兒島諸縣ノ議員七十三名出席シ約現ヲ定メタリ其主意ハ  
各地ノ事情ヲ交通シ公益ヲ謀ルニ在リト  
共進會 山下門内ノ舊博物館跡ニテ開ガル可キ米其外ノ共進會ハ十五年二月一日ヨリ  
開會ノ筈ナリト

二十三日 冰曜日 晴 舊二日 正午寒暖計五十八度  
電信 上州大間々町へ今般分局ヲ新設シ來ル十二月廿日ヨリ開局サレト云フ

支那公使 今度米國へ赴任スル清國欽差大臣鄭氏ハ去ル廿二日橫濱ニ來眷廿六日ニ任  
所ニ赴キ又我邦ニ駐劄スル新任欽差大臣禮氏ハ來月中ニ來京シ現任ノ欽差大臣何氏ト  
交代スルト  
勸業義社 長野縣筑摩郡上高井郡(舊松本藩)等ノ士族四百余名聯合シテ勸業義社ト云  
フヲ設立シ官林拂下ケテ出願シ永世ノ方向ヲ立テント目論見中ナリト云フ  
私立學校 鹿兒島縣下ニテ河野某ノ發起ニ依リ同盟シタル私立校誓約ハ廉耻ヲ重シ卑  
屈ニ安セス人々固有ノ權理ニ暢達シ人間本分ノ義務ヲ盡クサンコトヲ期ス同シ等ニテ若  
シ約束ヲ犯カスモノアラバ交際ヲ禁シ又他府縣へ出ツルハ同盟中へ報知スルコトナリ

廿四日 木曜日 晴 舊十三日 正午寒暖計五十度  
朝鮮治罪 朝鮮釜山港ニ居留スル對州八末永秀一外三名ガ梁山郎九浦ニ於テ貸金催促  
ノ下ヨリ闘争ノ末負傷者モアリテ容易ナラサル事變ナリシハ世人ノ知ル處ナルガ本月  
一日二日ノ兩日ニ我領事廳ニテ各禁獄ニ處セラレタリ  
東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社

明治十四年十二月卅一日新刷  
社主 小笠原美治  
編輯 同人  
印刷 吉野朝計  
大坂備後町角 吉岡平助

大審院長玉乃從四位序

判事 西岡諭明君序 判事 矢野茂君編

參事院議官補清浦奎台君序

### 治罪法問答

洋紙仕立全一冊  
定價金四十錢

治罪法頒布以來注釋、書陸續發兌其書浩繁其說繁冗該立法ノ精神果メ何ニカアル判事  
矢野君ノ治罪法問答ハ諸家ト其撰テ異ニシ法ヲ以テ法ヲ釋キ律ヲ引テ律ヲ明カニシ要  
言煩フハサスシテ立法ノ精神自カラ明カナリ此數言ハ清浦君ノ序ノ端言ヲ和解スル  
者ニテ實ニ該君ハ治罪法總体ニ付キ注意ノアル所ヲ灼々ト解キ示サレタル者ナレハ世  
ノ字句ヲ和解シタルト一般ノ注釋書ニ異ナリ讀ハ請フ繕卷シテ序言ノ確實ナルヲ詳ニ  
セン事ヲ

織田純一郎先生校正  
松永源七著

現行 一 治罪法手續 全壹冊 西洋形 長本 定價六十五錢 明治十五年一月十日發賣

本邦治罪ノ道古來慣習ニ依テ之ヲ行ヒ未ダ曾テ其成文法アラヌ故ニ新設ノ治罪法ヲ讀  
ミ其由ヲ解スルニ困ム者少カラス今ヤ新法實施ノ期ニ方リ若シ其手續ヲ知ラザレハ大  
ナル困難ヲ醸スル免レサルナリ此書ハ治罪法實施ノ上實際取扱手續ヲ簡明ニ掲ケテ漏  
ズ所ナシ管ニ法ヲ執ル者ノ便ノミナラス亦一般人民ヲシテ讀ミ且解シ易カラシム希ク  
ハ江湖諸君ノ陸續御購求アラソクナ

出板人敬白  
須原鐵  
弘令社二

大日本教育會書館			
七	三	三	七
〇	四	二	二
冊	號	架	函

第二音九士號  
共七冊